

○ オウバク（黄柏）



語 源

キハダ属 *Phellodendron* は、ギリシャ語 フェッロス「コルクガシ、コルク」+デンドロン「樹木」から。キハダの樹皮がコルク質のため。種小名 *amurense* は、ラテン語で「アムールの、アムール産の」の意。アムールとは、ラテン語で、東部シベリアのアムール地帯のこと。キハダがアムール地方で産するため。和名のキハダは樹皮の内側が黄色いことから。漢字は「黄檗、黄膚、黄柏」とも書く。黄柏とは、黄色いカシワ(柏)のこと。

基 原

Phellodendron amurense Ruprecht キハダ
Phellodendron chinense Schuneder
ミカン科 落葉高木

P. amurense は分布地域で形態的な変異が見られるが、それらの変種 *P. amurense* var. *sachalinense* Fr. Schmidt ヒロハノキハダ、var. *japonicum* (Maxim.) Ohwi オオバノキハダ 及び var. *lavalleyi* (Dode) Sprague ミヤマキハダも基原植物に含まれる。



薬用部分

周皮を除いた樹皮

産 地

日本(北海道、新潟、長野、岐阜、群馬、鳥取など)、
韓国、中国(東北、四川、湖北、貴州、雲南など)

主な成分

アルカロイド：ベルベリン、パルマチン、ジヤテオリジン、フェロデントリンなど
トリテルペノイド：オウバクノン、リモニン
フィトステロール類：β-シトステロール、カンペステロールなど

主な薬効

抗菌、抗炎症

代表的処方

止瀉薬および苦味健胃薬として配合剤(胃腸薬)の原料とする。また、漢方処方用薬でもあり、消炎薬とみなされる処方(外用剤も含む)及びその他の処方に配合されている。

【黄連解毒湯】

オウレンゲドクトウ
体力中等度以上で、のぼせがみで顔色赤く、いらいらして落ち着かない傾向のあるものの次の諸症：鼻出血、不眠症、神経症、胃炎、二日酔、血の道症、めまい、動悸、更年期障害、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ、口内炎
(処方内容) 黄連／黄芩／黄柏／山梔子

【温 清 飲】

ウンセイイン
体力中等度で、皮膚はかさかさして色つやが悪く、のぼせるものの次の諸症：月経不順、月経困難、血の道症、更年期障害、神経症、湿疹・皮膚炎
(処方内容) 当帰／地黄／芍薬／川芎／黄連／黄芩／山梔子／黄柏

【荊芥連翹湯】

ケイガイレンギョウトウ
体力中等度以上で、皮膚の色が浅黒く、ときに手足の裏に脂汗をかきやすく腹壁が緊張しているものの次の諸症：蓄膿症(副鼻腔炎)、慢性鼻炎、慢性扁桃炎、にきび
(処方内容) 当帰／芍薬／川芎／地黄／黄連／黄芩／黄柏／山梔子／連翹／荊芥／防風／薄荷葉／枳殼(実)／甘草／白芷／桔梗／柴胡

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「和漢薬の事典」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL: 06-6364-5861 FAX: 06-6364-6562
URL: www.fukudaryu.co.jp